



江蘇省丹陽市 「第1回自動車部品展示会」

日本自動車部品工業園の第一期竣工式を併催

中 国の自動車生産は、2010年に続いて11年も1800万台を超え、昨年は日本や米国の2倍以上の生産台数となった。現在、中国は世界最大の自動車大国であり、2015年の販売台数は3000万台に達すると見込まれている。

以前から自動車部品産業が活発な江蘇省丹陽市は、日本の中小自動車部品メーカーの中国市場へ参入を容易にするため、「日本自動車部品工業園」を昨年開設した。現在約20社の日系中小部品メーカーが操業を開始しており、さらに10社以上が進出を決めている。

この工業園では7月1～4日まで、第一期竣工を祝して、工業園へ進出済み企業と協力企業により、自動車部品展示会が開催された。竣工式典と展示会は、ジェトロ上海事務所の後援を得て開催され、在上海日本国総領事館から泉裕泰総領事が祝辞を述べに駆け付けた。

工業園を運営する東龍日聯(丹陽)企業管理有限公司の東和夫氏によれば、この工業園で進出企業の管理部門業務をまとめて支援することにより、進出企業



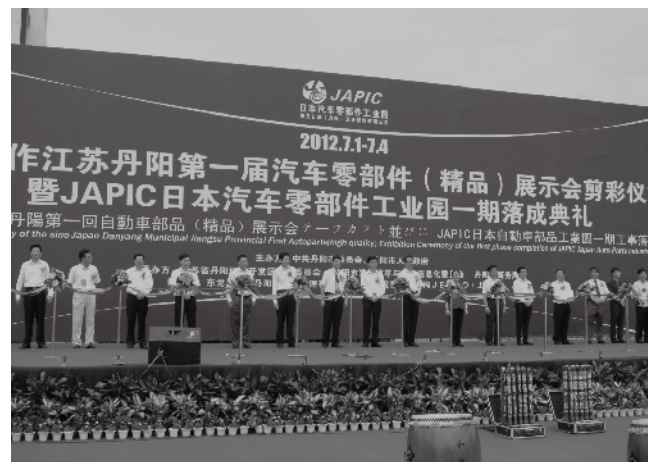
日本自動車部品工業園

が「ものづくり」に専念してもらえ、体制を構築することである。その背景には、すでに日本の自動車メーカーや大手部品メーカーの中国進出が進んでいる中で、縮小する日本国内市場だけでは中小部品メーカーの持つ高い技術が将来は消失してしまうのではないかと懸念がある。

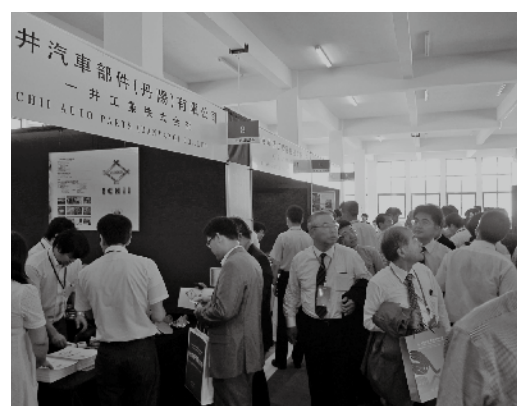
また、この工業園が目指すものは、自動車市場が拡大し、日本の中小部

品メーカーにも系列を超えて市場参入するチャンスがある中国で、小魚の大群が大きなクジラを形作って大海を泳ぐようなイメージで、日系自動車部品メーカーの集積にすることであるとのこと。将来的には部品メーカー約400社の集積を目標としている。

(了)



第一期竣工記念式典



展示会の様子